

第11回 熊野川懇談会 議事骨子

開催日時・場所	令和2年12月1日(火) 15:00~16:30 新宮市役所庁舎別館 大会議室
出席者	委員 14名(うちWEB参加7名)、1名欠席(資料1 熊野川懇談会委員名簿参照) 河川管理者等7名(うちWEB参加2名)、傍聴者7名

1. 第10回熊野川懇談会での主な意見と対応について

委員より情報提供のあった”気候変動による海面上昇と河道計画に対する影響”について、河川管理者(紀南河川国道事務所)より、河道計画における影響はないと考えている旨の説明が行われ、委員の了承を得た。

2. 過去の熊野川懇談会概要、熊野川懇談会現地視察会のまとめについて

(■委員からの意見 □河川管理者からの回答 ○電源開発からの回答)

■気候変動の影響で降水量の変動が大きく、熊野川では平常時の200倍以上の流量が洪水時に発生するが、河道の流下能力には限界があり、どこまで対応をすべきかを考える必要がある。

■流量変動が大きくなってきており、流域治水のメニューを検討すべきである。

■H23洪水を踏まえた河川整備のあり方を考える必要がある。流量を見直すのか、またはハードとソフトの組み合わせで考えるのか知りたい。

□河川整備基本方針を見直し中であるが、気候変動も考慮して検討している。整備計画については見直した基本方針の中の30年間でできる整備をすることになるが、河道での対応には限度があるのでそれを超える洪水に対してはソフト対策も考える必要があると考えている。(河川管理者)

■利水ダムの有効活用(総合運用)が課題である。

○H24年から運用を行っているが、下流部の被害軽減のために運用を高度化していきたい。

(電源開発)

■懇談会での範疇ではないかもしれないが、事前放流による利水容量の治水活用は、法に基づかない対応であり法的整備が必要である。スマホの普及率が高くなっており、洪水予測について住民に対するプッシュ型の情報提供を考えるべきではないか。直轄と県との間で事業を整合させる仕組みが必要ではないか。

□事前放流については、治水協定を結んで協力をいただいているが、利水ダムの治水運用を基本方針や整備計画へ位置付けすることについては今後話していきたい。(河川管理者)

■”明日の熊野川整備のあり方”は東日本大震災以前の考え方であるため、現状を反映させる必要がある。市田川沿川では、直接海から入ってくる津波での浸水に対して、安全面で工夫をして欲しい。熊野川では濁水が長期化することがあり、観光にも配慮した事前放流が必要である。

■”明日の熊野川整備のあり方”で示されている現状から10年以上経ったが、ダムの堆砂対策や河道掘削はどの程度進んだのか。水田は1日程度の浸水ではほとんど影響がないことから、農林関係では水田を利用した”田んぼダム”事業があり、熊野川でも流域内における農地での活用を考えてはどうか。

○ダム堆砂量に関しては、十津川筋のダムではH23洪水前では年間60万 m^3 堆砂していたものが、H23洪水後には90万 m^3 堆砂するようになったが、堆積土砂の年間処分量は20万 m^3 程度であり、ダムでの堆砂量は増えている。一方、北山川筋では大きな変化はない。(電源開発)

□下流部の掘削は毎年行っており、19,000 m^3/s は計画高水位以下で流下しており、24,000 m^3/s は来年度に堤防高以下で流下可能となるように工事を行っている。(河川管理者)

■10年間で地域振興のあり方が変わったのではないか。人口減少での地方創生が進められているので、その動きをとらえることが必要である。新型コロナ後の観光業のあり方について議論が必要である。

■河道掘削により塩水が遡上しやすくなっており、海水魚の増加や市田川浄化用水への影響がでてきている。

□上流から毎年数万 m³ の土砂が流れてくるので河道掘削は続けていく必要がある。北檜杖での陸上掘削など掘り方を検討していく。塩分濃度の調査は今後行う。(河川管理者)

■10年間の瀬切れや濁水の状況はどう変化したのか。

□瀬切れの発生状況については次回懇談会で回答する。(河川管理者)

○H30に選択取水施設をゴムシートから鋼製に改良したことで、場所によってはこれまでより放流水の濁度が平均3~5程度低減している。(電源開発)

■津波については、市田川水門の改修による効果検討を行って、もっとPRしても良いと思う。

”明日の熊野川整備のあり方”については2009年から2020年へのバージョンアップが必要だと思う。

■生活に密着した意見も取り入れてほしい。

3. その他

(ニュースレターの配布)

- 第11回熊野川懇談会のニュースレターは第10回熊野川懇談会ニュースレターに記載されている閲覧資料設置場所に設置するが、配布は行わないこととなった。

(その他のご意見)

- 傍聴者が来やすいように懇談会は土日も含めて日程調整を行って欲しい、また、会議開催の広報をもっと行ってはどうか。

資料1 熊野川懇談会委員名簿

(五十音順・敬称略)

氏名	専門分野	所属	備考
井伊 博行 い い ひろゆき	水循環、水質	和歌山大学 システム工学部 教授	
泉 諸人 い す み もろと	歴史・文化、 観光、林業	浦島観光ホテル株式会社 取締役 浦木林業株式会社 代表取締役	
加治佐 隆光 か じ さ たかみつ	水資源工学	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授	WEB 参加
岸上 光克 き し が み みつよし	農業経済、 地域政策	和歌山大学 食農総合研究教育センター 教授	WEB 参加
清岡 幸子 きよおか ゆきこ	地域の特性に詳しい (新宮市)	元新宮商工会議所女性会 会長	
高須 英樹 たかす ひでき	植物、生態系	和歌山大学 名誉教授 和歌山県立自然博物館 館長	欠席
瀧野 秀二 たきの しゅうじ	水生生物、植物	元和歌山県立新宮高等学校 教諭 熊野自然保護連絡協議会 副会長	委員長代理
立川 康人 たちかわ やまと	水工学 水文・水資源学	京都大学大学院 工学研究科 教授	WEB 参加
中島 千登世 なかしま ちとせ	地域の特性に詳しい (新宮市)	河川を美しくする会 副会長	
早坂 豊司 はやさか とよし	広報・報道	株式会社テレビ和歌山 報道制作本部局長	WEB 参加
藤田 正治 ふじた まさはる	河川・砂防、 森林工学	京都大学 防災研究所 教授	委員長
松尾 直規 まつお なおき	河川水質	中部大学 名誉教授	WEB 参加
森 信人 もり のぶひと	海岸防災工学	京都大学 防災研究所 教授	WEB 参加
山本 殖生 やまもと しげお	熊野の歴史・文化 ・信仰	国際熊野学会 代表委員 熊野三山協議会 幹事	
横田 浩 よこた ひろし	発電水力、 水源地域対策	エネルギー戦略研究所株式会社 取締役	WEB 参加